

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022～2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン
ロータリー

会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

第1759回例会

令和5年5月26日(18:30～19:30)

○ソング

- 我等の生業

○スマイルBOX

- 高畠裕会長（ロータリー情報委員会担当例会で中目パスト会長ありがとうございました。商工会議所の懇談会を断ってまで来ていただいたおかげで、大変参考になる卓話でした。）
- 寺島由和会員（遅ればせながら、誕生日のお祝いいただきました。ありがとうございました。最近家族からもスルーされているので感謝感激です。これからもよろしく願います。）
- 長克則会員（中目さん、卓話ありがとうございました。前回卓話をさせていただきましたのでスマイルさせていただきます。）
- 吉成真五郎会員（先日のゴルフコンペで、プービーメーカー、ドラ短2つ、ニアピンでゴルフボールを合計21個いただきありがとうございました。）
- 中目公英会員（本日の卓話をさせていただきましたので、スマイルします。）
- 永野文雄会員（中目会員、卓話ありがとうございました。28日の須賀川60周年は都合で欠席になりました。すみません。29日のゴルフは頑張ります。）
- 富永章会員（この度は、大変御心配をおかけして申し訳ありませんでした。人身事故にならなくて幸いです。）
- 関谷亮一会員（ロータリー情報について中目公英パスト会長の卓話ありがとうございました。ようやく田植えも終了いたしました。）
- 金田昇会員（中目会員、ロータリー情報の卓話を楽しみにしていました。）
- 宮本多可夫会員（先日のゴルフコンペでは楽しいゴルフをさせていただきました。3位でもらった米沢牛をおいしく頂きました。本日は、中目会員の卓話ありがとうございました。）
- 沼田重一会員（中目会員、卓話ありがとうございました。改めてロータリーの意味を良く理解出来ました。私も終結されないように努力します。高畠会長、感謝します。）
- 運天直人会員（先日行われた西クラブの4回目のコンペで優勝させていただきました。そしてスマイル委員会も残すところヶ月になりました。最後の最後まで皆様のご協力をお願いいたします。）

▶第1759回例会出席状況 (R5年5月25日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	24名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	6名
Ⓔ ②の出席者数	11名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	41名
Ⓕ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	63
Ⓖ = ⑥ / ⑦ × 100 (例会出席率)	65.1%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

高島裕会長



皆さん、こんばんは。本日もお忙しい時間帯ではありますが、例会のほうにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。最近では寒暖差が激しくて、風邪をひいてる方も結構いらっしゃるような感じが見受けられます。

皆さん、寒暖差の激しさについていかれますよう、是非体調管理のほうよろしくお祈りをしたいと思います。ロータリーで、世界で良い事をしましょうというふうに謳ってる中、本当に日本でも今、残念な事が結構起きてますね。今日、長野県で立てこもりで怪我をされてる方がいらっしゃるというような報道がされて、今それも継続中でありまして。また、先日は銀座で白昼堂々の強盗。なかなか本当に普段考えられないことが、今世の中で起こっているようなところがあります。また、先日は特殊詐欺で捕まったにも関わらず、ぞろぞろ芋づる式海外から捕まってくるというような事もありました。ここ3~4日前には、富永さんのコンビニにも車が突っ込むというおぞましい事件があったばかりでございますが、富永さんに聞いたところ、定期的な改装だということ、ニュースに出るほど改装にコマーシャルをかけているということであったと思えます。そんな中、いろんな事件がありますが、我々ロータリアンとしてすべき事、できる事、していかなければならない事が多々あると思えます。今日はそんな中、ロータリー情報委員会ということで、中目パスト会長のほうから卓話を頂戴するような内容であります。中目さんも本当にロータリーに関して非常に勉強をされてて、そして熱い方ですので、我々の心に響くような卓話をさせていただけるのかなというふうに感じております。いよいよ年度末に近づいてきたわけですが、もう来月はほぼ回顧の月になってしまいます。なので今日、中目パスト会長の卓話を聞きながら、次年度に向けて皆さんと一緒に勉強ができる時間を過ごせたらなというふうに感じておりますので、今日はよろしくお祈りしたいと思います。ということで、残り僅かとなりました会長幹事ではありますが、あと1か月頑張っただけで務めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上で、簡単ではございますが会長の時間の挨拶とさせていただきます。中目さん、今日はよろしくお願いいたします。

■幹事報告

車田裕介幹事

- 日本事務局 クラブ・地区支援室：第4回クラブ・地区支援メッセージ (2022-23Q4)
- 右近ガバナーエレクト事務：年次計画書送付について
- 公益社団法人白河青年会議所 第65代理事長 上田雄介：公益社団法人白河青年会議所創立65周年記念式典並びに記念祝賀会開催のご案内

■本日のプログラム

ロータリー情報委員会担当例会

○ロータリー情報委員会 中目公英委員長



皆さん、こんばんは。今日はロータリー情報委員会担当例会だというふうに藤田龍文プログラム委員長から言われ、中目さんですから卓話するんでしょうとかっていう、考える時間もな

く卓話をさせられているというわけがあります。高島会長には66名も会員がいるのも関わらず、財団委員長と情報委員長二つやれという過酷な命令が下りまして、11月に財団で一度卓話をしたのですけれども、今日はロータリー情報について卓話をするというふうな事になってしまいました。未だかつて、3年委員のロータリー情報委員会の委員長が例会で卓話を誰かやったかなと頭で思い出そうとするんですけども、やったパスト会長誰もいない。ロータリー情報委員会担当例会っていうのは、今年度初めてなのかなと思うくらいのもんで、何を喋っていいんだかわからないんですけども、一応資料を作ってきましたので、これでお話をさせてもらいたと思います。パワーポイント資料を作りましたが、あまり内容はないのと同時に、今日話すことはぐうたらロータリアンの私が喋っていいのかなと思って、内心軸地たる思いで喋っておりますので、私がこれから喋るような立派なロータリアンではないのでごめんなさいとは初めに謝らせてもらいたと思います。皆さん方、私もわからなかったので再認識をするために宮本先生が作ってくれましたロータリーの我がクラブの細則のほうを調べてみました。そうすると、第8条の2のBという所にロータリー情報委員会というのが定義されてい



ロータリー情報委員会とは

白河西ロータリークラブ細則 第8条 委員会 (2)-(b) ロータリー情報委員会

この委員会は、会員候補者にロータリークラブ会員の特典と責務に関する情報を提供し、会員にあらゆるレベルのロータリーの歴史、ロータリーの目的、活動に関する情報を提供し、入会してから3年間、新会員のオリエンテーションを監督するものとする。

クラブ会員全員に、特に新入会員に対して、ロータリーをよく理解出来るよう援助する為、ロータリーに関する情報を提供する。

るし書かれています。ここにあるとおり、この委員会は会員候補者にロータリークラブ会員の特典と責務に関する情報を提供し、会員にあらゆるレベルのロータリーの歴史、ロータリーの目的、活動に関する情報を提供し、入会してから3年間、新会員のオリエンテーションを監督するものとするというふうなことになっているわけです。この文章をまともに読みますと、新入会員が我がクラブに入ってくる前にロータリー情報委員会はその新入会員の候補者について、特典と責務を情報を提供しなくてはいけないというんですけど、多分未だかつてロータリー情報委員会はそんな事したことはないと思うんです。これを簡単に平たく言うと、そこの下にちょっと大きく書いてあるとおりクラブ会員全員に。そして、特に新入会員に対して、ロータリーをよく理解できるように援助するため、ロータリーに関する情報を提供するような委員会であるというふうなわけでありまして。私も入った頃は、よくロータリー情報委員会の方々が入会3年未満の新入会員を日を別にして夜一席設けながら、いろいろとロータリーの情報の話をしたというふうな記憶はあるのですが、卓話をしたという記憶はほとんどないので、何を喋っていいのかわからないんですけど。とりあえず、ロータリーの情報、目的と活動に関する情報を提供しないとイケないというふうなことなので、今日出席の皆さん方で新入会員3年未満って、長さんと沼田さん二人しかいないということですから、その他のメンバーの方々は確認をするというふうな意味で聞いてもらえればと思います。ロータリーとは何ですか



ロータリーとは

ロータリークラブ定款 第5条 ロータリーの目的
ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

奉仕の理念 (The Ideal of Service) の奨励育成

他者に対する思いやりを持ってお役に立とうとする心持ち
(thoughtfulness of and helpfulness to others)

国際ロータリー初代事務局長 Chesley Raynolds Perry

他者 (others) とは、自分以外の全て、あらゆるレベルにおいて。

具体的には、家族、会社・事業、取引先、職種、業界、町、地域、国、社会全体
つまり、1 個人生活、2 事業・業界、3 地域社会、4 国際社会、これらすべてにおいて。

というふうなことを考える時に、国際ロータリーのクラブ定款というのがあります。その第5条にロータリーの目的というのがあります。ロータリーの目的は意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。これ以降4つの項目あるんですけど、その項目までに入る前の一番の前段の部分。ロータリーの目的というのは、奉仕の理念を奨励し育むこと。育成することにあるというふうな書いてあります。この奉仕の理念ってやつはそこに書いてあるように、「The Ideal of Service」というやつです。普通、私たちが例会の初めに歌っているのが奉仕の理想と通常言っていますが、このIdealという言葉

念と普通は訳すところを理想と訳したのは梅吉さんだそうなんです。米山梅吉さんが日本語に直す時、一番最初にこの「The Ideal of Service」というやつを奉仕の理想というふうに訳したわけで。通常、歌では奉仕の理想と言っていますけれども、その言語の意味からするとこの理念というほうが適切なんじゃないのかなとは思いますが、まあ同じことを言ってるわけです。この奉仕の理念って、じゃ何を言っているのかというと、国際ロータリーの初代の事務局長のチェスレイ・レイノルド・ペリーさんという人が言った言葉で、それは他者に対する thoughtfulness。思いやりと helpfulness、何かお役に立ちたいという思い。そういう気持ちをずっと持ち続けられるような人間になること。これがロータリーの目的だと言っているわけです。thoughtfulness と helpfulness、これがロータリーの基本的なもので、その others というのは自分以外の全てのもの。つまり、家庭内ではご家族の方々に対して thoughtfulness と helpfulness を持った何かをしようとする事。自分の会社だと従業員に対して、あるいは取引先に対してそういうふうに思う気持ち。あるいは、ロータリーというの今は一業種一人ということではなくてしまいましたけれども、昔からロータリーというの基本的に一業種一名が入会できるということですから、その業種の中の代表としてロータリーに入ってるということですから、その業種全て。そして、広くその自分の職業の業界全体に対して thoughtfulness、並びに helpfulness の行為をなそうというふうなこと。更にはもっと広がって、この白河の地域。あるいは西白河地方、日本の国、社会全体、国際社会、国、世界に対してもすべてに対して、思いやりの気持ちを持って何かお役に立ちたいという、そういうふうな心持ちを持つ人。そういう人たちの集まりがロータリーの目的になってるんだというふうに言われています。ここでいうところのサービス、他者に対して何かやりましょうという「The Ideal of Service」のサービスというの基本的にはロータリーでは、もっと二つの標語として表しています。自分自身の事は後にして、取りあえず他人の事。他者に対して何かしましょうというのが、いわゆる日本語でいうところの「超私の奉仕」「Service Above Self」です。これが



奉仕 (SERVICE) とは

Service above Self

超私の奉仕

社会奉仕・国際奉仕の理念

One profits most who serves best

最もよく奉仕する者 最も多く報われる

職業奉仕の理念

「Service」とは 無償有償を問わず 相手の意に沿うように尽くすこと

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか

Serviceの行為がこの倫理基準を満たしているか
「四つのテスト」のチェックが求められる

基本的には社会奉仕であるとか、国際奉仕であるとかというものに対するロータリーの人たちがよく使う単語になっています。今は名誉会員になっていましたが、林さんは何かあると必ずこの、超我の奉仕、超我の奉仕って言うのをよく思い出しますが、今のメンバーで、超我の奉仕って言う人はなかなかいないので、この次は多分金田昇さんが毎日のように超我の奉仕、超我の奉仕って言うように喋るようになるんじゃないかと思います。もう一つ自分の職業奉仕に関するものとして、そこにある「One profits most who serves best」これが「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」。だから、一生懸命他人のために対して尽くす人が一番それに対して報われるんですよ。だから、一生懸命奉仕しましょうと。他人の為に思って何かしようというこの二つが職業奉仕上のモットーになっている。今、吉野さんが一生懸命勉強しているRLIなんかに行きますと、この「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」というの知ってますかとかって必ず聞かれるようなことになりますから、新入会員に皆さん方はロータリーの一つのタームとして覚えておいてもらいたいということです。それから、日本語の奉仕という勤労奉仕にしても何にしても、あるいは神社だとかお寺に対して何かするという場合にも、基本的には自分に対して何か利益がもたらせるのよりは、無償で何かやってやるということを通常日本語で奉仕というんですけれども、ロータリーでいうところの奉仕というのは、いわゆる言語のサービスですから、このサービスというのは無償の奉仕ばかりじゃなくて、そのやってあげたことに対する対価として、ある程度の自分に対して益になるものを貰うということは、それは排除していないことですね。排除したら職業奉仕なんか言ってもらえませんので。自分の職業を通じて社会に奉仕をして、そのためにお客さんからそれなりのものを頂戴するというのは当然の事なので。この場合の奉仕というのは、無償奉仕ばかりでなくて有償奉仕の事も何かを得るといことも全然問題はないんですけども、このよく言われるのはその偽装何とかかんとかって、それ以上の事を利益を得ようというのは、それはロータリアンとしては駄目で。やったことに対して、相応の価値を求めるといのはサービスの範疇から出ていない。とにもかくにも、thoughtfulness、helpfulnessをもって、相手に対して相手の意に添うように尽くしてあげる事。これがサービスだというわけです。有償にしろ無償にしろ、それなりの奉仕を売るにしろ、何かしてあげるサービスをする時にそれは本当にどうなるかというのを試すのが、ここにもある四つのテスト。このテストにのっかって、これから自分がやるものとして、それに合致してるかというものを必ずチェックしながらやってください。この4つのテ

ストと「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」。この単語に関しては、ロータリアンの方々は必ず頭に入れておいてもらって、何か意識的にやらないと奉仕をしないではなくて、無意識のうちにも他者に対してthoughtfulness、helpfulnessの行動がもう何も考えなくてもさっと自然と出てくる。こういうふうな事になるのがロータリーの目的だというわけです。それに対して、その私たちクラブというのは



ロータリークラブとは

ロータリークラブ定款 第3条 クラブの目的

- (a) ロータリーの目的の達成を目指すこと
- (b) 五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施すること
- (c) 会員増強を通じてロータリーの発展に寄与すること
- (d) ロータリー財団を支援すること
- (e) クラブレベルを超えたリーダーを育成すること

**奉仕の理念 (the Ideal of Service) を以て
奉仕 (SERVICE 意義ある事業) を実践する
真のロータリアンを育てる**

真のロータリアンを育成するところ

どうなってるかということ、定款の3条にあるわけですが、一つ一つを説明しだすと難しいので、新入会員の人たちにはこのAからEまですべてまとめて奉仕の理念を持って奉仕を実践をする。いつでも四六時中、朝でも昼でも夜でも、春夏秋冬なんでもいつでも、相手の為に対して奉仕をすると。そういうふうな心を持った人間の真のロータリアンになるところの、そのロータリアンを育てるのが一緒に集まっているこのクラブであるというふうに理解をしてもらえればいいじゃないかと。ですから、ロータリークラブというのは親睦で楽しい事をするというのはそれはもちろんですけども、その目的は自分自身が真のロータリアンになるためにそれを育む所、育成する場所であるというふうなところがクラブになっているというわけです。皆さん、3年以上なのでこんなこと言われなくてもいいと思ってるでしょうけど、まあ喋ってる私もそう思ってます。ロータリアンという人はどういう人が



ロータリアンとは

ロータリークラブ定款 第8条 会員身分 第1節 全般的資格条件

善良さ、高潔さ、リーダーシップを身をもって示し、事業、専門職務、および/または地域社会でよい評判を受けており、地域社会および/または世界において奉仕する意欲のある成人

ロータリー入会者の条件

- ① 事業の管理者であること
- ② 管理経営する事業所が、その職種・業界において指導的立場にあること
- ③ 人柄が高潔で、誰からも信頼・信用されており、社交性がある人物
- ④ 入会后、ロータリーに対する熱意を持つであろう人物
- ⑤ 入会后、ロータリーの例会会合に出席を欠かさないであろう人物
- ⑥ 入会后、ロータリアンとしての実践活動を怠らぬであろう人物

なれるのかということ、定款の第8条の会員身分の第1節全般的資格条件というのに、善良さ、高潔さ、リーダーシップを身をもって示し、事業、専門職務、及びまたは地域社会で良い評判を受けており、地域社会及びまたは世界において奉仕する意欲のある成人がロータ

リアンになれるんですよと言っているんです。それを簡単に箇条書きに書いてきました。通常は一業種一人で事業の管理者。その事業についてある程度自分でんだかんだ出来て、自分で自分の時間を勝手にある程度自由ができるような、その事業の管理者であること。その管理、経営する事業所が、その職種、その業界において指導的な立場であること。それが一業種一人というふうな事で。その業界の代表の人がロータリーに入れば、そのロータリーで真のロータリアンになった人はその業界においてそのロータリーの精神をその業界全体に行き渡らせることができるというわけですね。人物が高潔で、誰からも信頼信用されていて、社交性がある人物。で、ここまででは残念ながら駄目で、そのここから4番目から6番目が大切だというわけでありまして。どうぞ新入会員の皆さん覚えてください。入会后、ロータリーに対する熱意を持つであろう人物。それから、入会后ロータリーの例会、あるいはIMであるとか、地区大会であるとか、ロータリーの例会、会合に出席を欠かさないであろう人物。入会后、ロータリアンとして実践活動を怠らないであろうそういう人物。そういう人物をロータリーの会員として新入会員に勧誘してもらいたい。1から3まではやりじゃなく、ロータリーに入った後もちゃんとやってもらえそうだというふうな人を出来るだけロータリーの入会者として誘ってもらいたいというふうに書いてあるというわけです。世界において奉仕をする意欲がある人。入会するばかり、良い評判を受けているだけではなくて、入った後もずっと奉仕の意欲のある人。そういう人がロータリアンになれる条件なんですよ。是非、この4番目から5番目をクリアできる人を新入会員として迎え入れたいというわけでありまして。こ



例会とは

ロータリークラブ定款 第5条 ロータリーの目的
ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

ロータリークラブ定款 第7条 会合 第1節 例会
本クラブは、細則に定められた日および時間に、定期的週の会合を開くものとする。

例会とは奉仕の理念を奨励育成するところ

会員一人一人が、会員の家庭の中で、会員の職業を通して、会員が属する業界全体で、会員が属する町で、地域で、国で、奉仕の理念を以て意義ある事業を実践できるように

例会とはロータリアンの学びの場

の例会というのは、それはクラブの定款の5条の先程言った目的やロータリークラブ定款の7条では、細則に定められた日および時間に定期的週の会合を開くものとする。こういうふうにしただけではほとんど書いていないんですけれども、今まで話をしておき、毎週一回開く例会というのは先程から言っている奉仕の理念を奨励、育成するところ。会員一人一人が会員の家庭の中で、会員の職業を通じて会員が属する業界全体で、会員が属する町で、その地域で国で

世界で奉仕の理念を持って意義ある事業を実践できるようにと、例会では真のロータリアンになろうとする学びの場所というのが例会であるというふうには考えられているので、ここにご飯を食いに来るだけではない。学びの場であるという意識を持って、たまたま隣に座った人と何かちょっと会話をして、自分の為になるようなちょっとした一言を聞く。あるいは、自分が喋るといふような親交を交わすための真のロータリアンになるための学びの場所というのが例会であるというふうにとらえられているので、例会というのをロータリーは大変大切に考えているというわけです。その事が定款の中に書かれています。これは本当に厳しい事が書かれていて、私自身も読んでいて自分はロータリアンじゃないなと思うことがあるんですけれども、一応これは国際ロータリーの決めているクラブ標準定款なので、とりあえず一回読んでみます。そこには、13条の4節に書いてあります。出席率、会員はメイク



例会出席への厳しさ ①

ロータリークラブ定款 第13条 会員身分の存続 第4節 終結 一 欠席

(a) 出席率。会員は、

1. メークアップを含むクラブ例会と、衛星クラブ例会の出席率が少なくとも50パーセントに達しているか、年度の各半期間にクラブのプロジェクト、行事、その他の活動に少なくとも12時間参加しているか、または、バランスの取れた割合でその両方を満たしていなければならない。および

2. 年度の各半期間に、本クラブまたは衛星クラブの例会総数のうち少なくとも30パーセントに出席、またはクラブのプロジェクト、行事、その他の活動に参加しなければならない (RI理事会によって定義されたガバナー補佐は、この義務を免除されるものとする)。

規定通り出席できない会員は、理事会が正当かつ十分な理由があると認めない限り、会員身分を終結されることがある。

アップを含むクラブ例会と衛星クラブ例会の出席率が少なくとも50パーセントに達しているか。年度の各半期ごとにクラブのプロジェクト、奉仕プロジェクト、行事、その他活動に少なくとも12時間参加しているか。または、バランスの取れた割合でその両方を満たしていなければならない。50パーセント、あるいは奉仕プロジェクトで12時間以上。なかなかハードルきついですね。さらに、2項目めはもっと実は厳しいんです。年度の各半期ごとに本クラブまたは衛星クラブの例会総数のうち、少なくとも30パーセント。上で50パーセントと言っているのに、2番目で半期ごとに30パーセントと書いてあるから、いってみれば結局は年間で60パーセント以上出ろって実は言っているんです。30パーセントに出席、またはクラブのプロジェクト、行事、その他の活動に参加していなければならない。これはえらいハードルが高いですね。RI理事会によって提示されたガバナー補佐は、この義務を免除されると思うんです。ガバナー補佐はそのガバナー分区内のクラブを定期的に回っていかないといけないので、自分のクラブの例会はなかなかこのパーセントがクリアできないから、この義務が免除されているというわけですね。規定どおり出席できない会員は、理事会が正当かつ十分な理由があると認めない限り、会員



例会出席への厳しさ ②

ロータリークラブ定款 第13条 会員身分の存続 第4節 終結 一 欠席
 (b) 連続欠席。 理事会が正当かつ十分な理由があると認めない限り、連続4回例会に出席せず、またメイクアップもしていない場合、その欠席がクラブ会員身分の終結を要請していると考えることができる。
 理事会が会員に通知した後、理事会は、過半数によって、会員の会員身分を終結することができる。

名誉あるロータリアンという地位を引き受けた以上、ロータリーの例会へ常に出席する義務を負うことを、会員候補者に必ず告げておかなければなりません。

身分を終結されることがある。こう書かれているんですね、定款では。怖いですねえ。本当に怖いんです。その次、ロータリークラブ定款13条、会員身分の存続第4節のその次です。(b)というやつ、連続欠席。理事会が正統かつ十分な理由があると認めないかぎり、連続4回例会に出席せず、またはメイクアップもしていない場合。その欠席がクラブ会員身分の終結を要請していると考えることができる。だから、1か月間1回も出てこないと、あんた辞めちゃったんだねって言われる可能性があるわけですね。こんな事言ったら大概の人みんな辞めちゃってますよね。だけど、こう書いてあるんです。怖いですね。理事会が会員に通知した後、理事会は過半数によって会員の会員身分を終結することができる。こう書いてあるんですね。理事会にあの人辞めさせようと提案するのは大体会長ですから、まあ皆さん月4回も連続してずっと欠席しても、あんた辞めさせと言われないのは、みんな高島会長が優しいからですからね。だから、会った時には必ず高島会長にどうもありがとうございます。あなたのおかげでやっとロータリー会員でいることができるんですと、会長に頭下げないといけないというわけですね。こういうふうに定款で書いてあるんですよ。いや、本当に怖い定款ですね。ここに書いてあるのは、結局先程ロータリーの入会の条件の4番から6番、黄色いやつでありましたけども、もう一回ここに改めてまとも言うと、名誉あるロータリアンという地位を引き受けた以上、ロータリーの例会へ常に出席する義務を負うことを会員候補者に必ず告げておかなければなりません。ですから、入会候補者には半期ごとに30パーセント以上は必ず出席しないと駄目なんだよと。連続してひと月に一回も来ないと辞めさせられちゃうんだよということを、前もって告げておかないといけない。それを了解した人が我がクラブの新入会員になっているわけですから、ここにいる皆さんは既にこのことは当たり前としてわかってる人というふうに思われてるわけですね。たまたま4回以上休んじゃった人は、必ず高島会長にどうもありがとうございますと、こうお礼を言ってもらいたいというわけですね。お礼の印としてスマイルを出すというのでもいいかもしれません。実はロータリーというのは学びの場所だけだというとき



親睦とは ①

ロータリークラブ定款 第5条 ロータリーの目的
 ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。



ロータリーの樹

ロータリーという苗木が成長する為、根に栄養を与える土壌が親睦である
 ロータリーの親睦とは奉仕の理念を育む為の土壌
 親睦なくしてロータリーの成長はない

スギスとしてしまいそうですけど、その前段として親睦というのをロータリーは大切にしているわけであり。よくロータリーの活動はすべてのロータリーの樹というふうに例えられることがよくありますけれども。このロータリーという樹、苗木が成長するため、その根に栄養を与える土壌というものが親睦なんです。ですから、一週間に一回この例会に出てきて、お互いの会員同士が何だかんだの他愛もないような一言を通じて少しずつ親睦を深め合っていくと。これがロータリー活動の根本になっているということだけはいえます。ですから、月4回ずっと休んでも大丈夫だというのは、高島会長と共に全会員の一緒に頑張りましょうという親睦の心根がみんな持っているから、そういうふうなギスギスした事にならないわけですけれども。その前段として、ロータリーを育てる土壌と



親睦とは ②

Acquaintance と Friendship と Fellowship

- Acquaintance** 顔見知りや知り合い程度の交友
 - Friendship** 目的や理念が違っていても気にせず、クラスメイトや幼馴染みなどの親しい友人の間柄で使用される友情
 - Fellowship** 目的や理念を同じくする関係で、チームの同僚や組織の組合員などの「志を同じくする者、相集い、力を合わせ」という仲間意識
- ロータリークラブに入会すれば直ぐにロータリアンと呼ばれるが、新入会員は例会に常に出席して「Acquaintance → Friendship → Fellowship」へと交友を深め、ロータリーの同志とならましよう。

しての役割が親睦になっているというわけなんです。現在、西クラブは66名いて紹介者が2人で新入会員入ってきたとしても、その紹介者とは親しい間柄かもしれませんが、66人の会員全員と入会してすぐに親睦を深めるといのはなかなか難しいかもしれません。通常は定款上に書いてあるのは、このアクエインタンス、フレンドシップ、フェロウシップというふうに、毎回毎回例会に出てきて会員同士の付き合いを通じて少しずつ親睦を深めていくということが、ロータリアンとして要請されています。66名のうち紹介者以外の63名くらいの人とは、一番初めはアクエインタンス、ただ単なる顔見知り、知り合い程度ですけれども、毎週毎週例会に出てきて、何気ない言葉を交わしながら少しずつフレンドシップを強める。この場合、まだロータリーの理念について深くわかっていないので、

目的や理念は違ってはいますが、クラスメイトや幼馴染のような形の親しい友人関係というフレンドシップの関係になり、更にはフェロシップ。ロータリーの理念と一緒に頑張りましょう。その理念のために、一緒に何かについて活動しましょう。目的や理念を同じくするような関係。野球のチームのメンバー。組織の組合員みたいな人。40歳までに入っていたころの団体の綱領なんかの言葉を利用すると、志を同じにする者一同力を合わせという仲間意識を持つようなフェロシップになるというのが、ロータリーの中では大切になってくる。ロータリークラブに入会すれば、入会した当時の時からすぐにロータリアンと呼ばれるわけですが、新のロータリアンになるために、できれば新入会員の人は毎週例会に出席をしてアクエインタンスからフレンドシップ、そしてフェロシップへと交友を深め、ロータリーの真の同士になって親睦を深めましょう。そういうふうな事をこれは僕が言ってるんじゃないで、ロータリーの新入会員にはこういう事を喋りなさいと書いてあるので、僕はこんな立派なロータリアンではありませんから、こんなことを喋っている僕はこんなに素晴らしい人だとは思わないでもらいたい。それだけは何重にも言うておきます。よく、もう一つのロータリーで有名なタームがありますから、新入会員の人はこれも覚えてくだ



学びとは

Enter to Learn, Go Forth to Serve

入りて学び、出でて奉仕せよ

(1947-48年度 Kendrick Guernsey ケンドリック ガーンジー RI会長テーマ)

例会とは 親睦と学びの場	例会に出席し 会員相互の交流を深め	真の ロータリアン 奉仕
親睦と学び	人間的成長	

さい。「Enter to learn ,Go forth to Serve」「入りて学び、出でて奉仕せよ」これはここに小さい字で書いてます。1947-48年度の国際ロータリーの会長さんであるケンドリック・ガーンジーという人の国際テーマでした。「Enter to learn ,Go forth to Serve」「入りて学び、出でて奉仕せよ」。だから、ロータリーのクラブに入ってきたばかりではロータリアンではありませんけれども、まだまだ一生懸命学びましょう。そして、ロータリーの精神、thoughtfulness並びにhelpfulnessというのを四六時中、意識しなくても無意識でもやれるような人間になって、外に出でて奉仕の理想のその奉仕Serveをしましょうというふうに、例会は学びの場であるというのはこういうふうな意味で言っているんだ。例会とは、その親睦と学びであり、例会の出席を通じてメンバー同士の相互の交流を深めて、ロータリアンとしての人間的な成長をして、真の



ロータリーの特典とは

本来ならば出会えない異業種の会員が 奉仕の理念というロータリーの志を共有する仲間となり互いに楽しく睦み集う「親睦の喜び」を得て ロータリーの奉仕を「学ぶ喜び」を知り得てあらゆる機会から自ら社会へ貢献する「奉仕の喜び」を得ることが出来ます

真のロータリアンになろうと自らを律し 多少なりとも社会に役立つ人間との「自尊心」を得てロータリアンのつながりの中から更なる飛躍や成功への「機会」を獲得することが出来ます

ロータリーに入会していなければ体験できない多くの「感動」を共に分かち合うことが出来ます

ロータリーは一度しかない人生をより豊かに出来ます

ロータリアンになって一生懸命世のため人のため奉仕をしましょう。そういうふうな人生哲学のようになってるのがロータリーなんです。そういうふうな言われてるというわけであり。ロータリーの特典というのは、そんなロータリーに入るとはどのような特典があるんですか。一業種一人というのはロータリーですから、本来ならば出会えないような異業種の会員同士が奉仕の理念というロータリーの志を共有する仲間となり共に楽しく睦み合う、その親睦の喜びというのを得る。ロータリーの奉仕を学ぶ。真のロータリアンになるための奉仕の理想というのを共に学ぶ。その学ぶ喜びを得て、それであらゆる機会、自ら社会に出て奉仕をする。その奉仕の喜びを得ることができるわけですね。というふうに言われています。この次の文章はパワーポイントが間違っているのが適当コピーしたやつが、その次のサービスというのはこれはなかったことにして読んでください。真のロータリアンになろうと自らを律し、多少なりとも自分は一業種一人としてロータリークラブに入ることになったんだもんね。多少なりとも社会の役立つ人間だと周りには認めてくれたんだもんねという、そういうふうな自尊心というものが自分の中に得ることができて、ロータリアンの繋がりの中から商売上の更なる飛躍であるとか成功というふうなものを得るような、そういうふうなチャンスを得ることができるんだ。ロータリーに入っていなければ体験できないような多くの感動というものを、クラブのメンバーと、あるいはもっと更に広く言えば地区のメンバーと、あるいは国際ロータリーの多くのメンバーと共に分かち合う事ができるという、こういうふうな親睦の喜び。学ぶ喜び。奉仕の喜び。自分がそれなりの人間だと思えることができるということ。更には、自分並びに会社が伸びていくチャンスを得ることができ、ロータリーでなければ得られないような感動を得る。まさに、こういう事を得られるのがロータリーの特典なんです。こんな別々にロータリーじゃなくたって得られるもんねとは、まあ言わないでもらって、一応ロータリーに入るとこういうものが得られるんです。言ってみればロータリーは人生哲学というふうなことなので、一度しかない人生をより豊かにすることができる。ロータリーに入る



魅力的な例会とは

- ①会長の感動的な挨拶
- ②会員同士の交流の時間
- ③会員の信頼を深めるスピーチ
- ④知見を広めるゲストスピーチ
- ④ロータリーについての研修

- 1) 年間の例会スケジュール
- 2) 意義深い奉仕プロジェクト
- 3) クラブ会員の一体感の醸成

**Grow Rotarian
Enjoy Rotary**

**クラブ会長の意気込みが
会員を引っ張り上げる**

ことで、より多くの人との交流を通じてこういうふうな豊かな人生を送ることができるというのが、ロータリーの特典なんですよというふうに思っていたければ、新入会員の皆さんありがたいと思っています。そういうふうな学びである例会というのが、毎週毎週出てきたいと思えるような魅力的な例会にするための構成要素というのが左側に書いてある4つのことだと思われま。毎週毎週1時間しかない例会の中で会長の時間というのがありますから、その時に会長がその時出席してくれたメンバーに対して何か為になるような感動的な挨拶をする。これは会長がやらなければならない一番の大切な事だろうと思いますし、毎回毎回この演壇に出て喋れるのは会長一人しかありませんから、その会長の時間というのを有効に使って会員に対して会長が感動的なご挨拶をするというのは大切な要素だと思います。それから、食事を取りながらまたま横に並んだメンバーと何気ない話をしながら会員同士の交流を経て、その中からちょっとした自分の為になるような事を得ることができるという、この会員同士の交流のちょっとした時間というのも例会の大切な要素だと思います。それから、一業種一人として会員として入ってるわけですから、その業種でしか知らない事というものを、この演壇に出てきて会員がスピーチをする。それでもって、その他のメンバーのほうから信頼を得る。会員スピーチというのは、大変為になるのではないかと思います。今年度はもう終わりですけども、次年度のプログラム委員長はできれば会員スピーチというのをある程度多く取り入れてもらえれば、新入会員卓話で一回喋った後、この次壇上に立つのは3年後とか5年後ではしょうがないので、一年に一回あるいは二年に一回くらいは会員のメンバーがこの壇上に出てきて、20分喋らなくても3分間ないし5分間喋るということを通じて、会員同士の信頼を深め合うことができるんじゃないかと。これも大変有効な魅力的な例会の大きな要素の一つになってるんじゃないかと思いますし、メンバーばかりじゃなくメンバーに含まれてない職種の人たちにゲストスピーカーとして来てもらって、お話を聞いて知見を広めるということも大切な魅力的な例会になる要素だと思いますし、ロータリーというのはロータリーでしか通じない

用語というのはいっぱいありますから、それについてなにがしかの研修か勉強させてもらえるというふうな事は、2年続けて吉野君はRLIに出向してますから、もう3週間に1回くらい吉野君にスピーチを振ると、吉野君は毎回毎回為になる話をしてくれるわけですから、次年度のプログラム委員長、吉野君を十二分に活用しないとイケないと僕は思います。そのような形を通じて、一人一人が真のロータリアンに成長しましょう。共にロータリーというのを楽しみましょう。そのための一週間に一回の学び、親睦の場というのが例会であると。クラブの会長というのはそういうふうな例会の一年間のスケジュールを練り上げると共々、五大奉仕部門の奉仕のプロジェクトというのをやって、例会以外の奉仕のプロジェクトの時間という半期ごとにある程度のプロジェクトを使って年間だと12時間以上な訳ですから、それなりにメンバーが例会以外の奉仕活動というのを共に一緒にするというのが大切な事なので、この二つを通じて3番目。クラブ会員の全体が一体化というのを醸しだす。まさに、この3つの事は一番はクラブの会長の意気込みが会員一人一人を引き上げるわけですので、4週間続けて休んで辞めなくたっていいというのは高島会長のおかげですけども、高島会長が意気込みを会員に対して示さないと、会員は4週間休んだって構わないもんねと思っちゃおうと。こういうふうな事ですから、クラブの会長というのはなかなか重要なポストになってるんじゃないかと思ひます。定款上は、会長の時間の中で喋ることには必ずロータリーの情報について喋りなさいというふうに書かれている。つまり、何気ない世間話を毎回するのでなくて、ロータリーに絡んだことを喋りながら会長の時間をすることになってますから、佐藤次期会長に一年間頑張ってください。まさに会長の意気込みが会員を引っ張り上げ、毎週例会に出てくるのが楽しいよと思えるようになるというふうになるんじゃないかと思ひます。ご清聴誠にありがとうございました。



ロータリー情報委員会担当例会
ロータリーと例会
(ロータリアンと例会出席)

ご清聴ありがとうございました

白河西ロータリークラブ 2022-23年度
ロータリー情報委員会 委員長 中 目 公 英